

作成：平成 17 年 3 月 3 日

修正：平成 30 年 3 月 20 日

各ユーザに割り当てられた保存場所について

1. 各ユーザに割り当てられた保存場所とは

情報処理設備に設置しているコンピュータを利用する際、利用者はユーザ ID を入力します。コンピュータはユーザ ID の入力を受けることで利用者を識別でき、そのユーザ専用にデータの保存場所を準備します。日常の利用において、利用者はこの保存場所に自分のファイルを自由に保存することができます。

各ユーザに割り当てられた保存場所は Windows の「ホームドライブ」と Linux 「ホームディレクトリ」の 2 種類があります。

- Windows と Linux のファイルの保存場所
 - ・ 他人からアクセスされることはありません。
 - ・ 保存できるデータの割当容量が決められています。
 - ・ 情報処理教室であれば、どのコンピュータからでもファイルにアクセスすることができます。
 - ・ インターネットに繋がっていればファイル転送サービスや遠隔端末接続 (SSH) サービスなどを利用することで、研究室や自宅からでも各ユーザに割り当てられた保存場所に保存しているファイルへアクセスすることができます。

2. 保存場所の割当容量

各ユーザに割り当てられた保存場所には割当容量を設定しています。割当容量を超えてファイルを保存することはできません。

なお、割当容量のことを英語で「quota (クォータ)」といい、割当容量を「クォータ」と表記することがあります。

- Windows と Linux のファイルの割当容量

各ユーザの OS ごとに以下のように設定をしています。

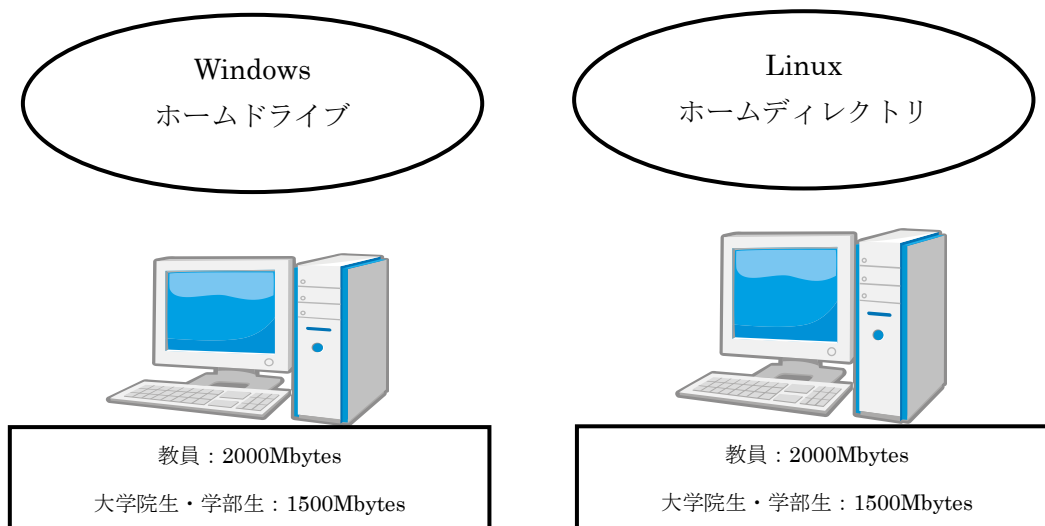
- ・ Windows 「ホームドライブ」

初期割当容量は教員：2000Mbytes、大学院生・学部生：1500Mbytes

- ・ Linux 「ホームディレクトリ」

初期割当容量は教員：2000Mbytes、大学院生・学部生：1500Mbytes

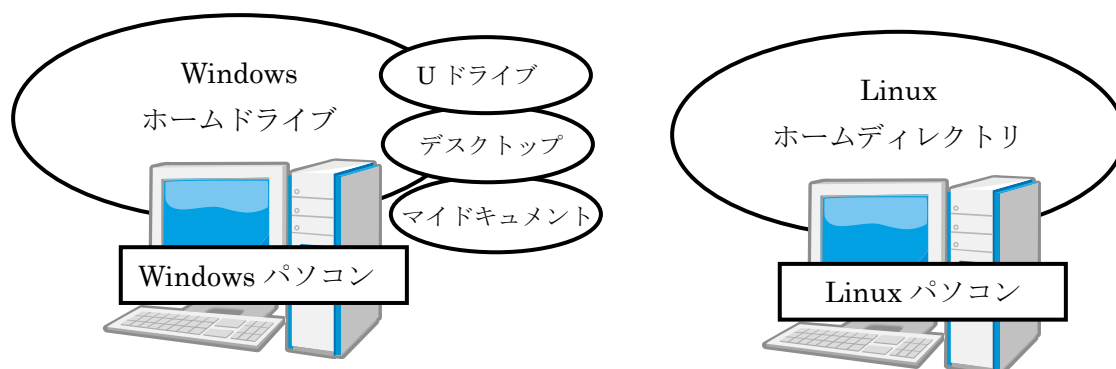
Windows 「ホームドライブ」と Linux 「ホームディレクトリ」との割当容量はそれぞれ独立しており、個別で管理されています。つまり教員であれば「Windows のファイルの保存場所」に 2000Mbytes、「Linux のファイルの保存場所」に 2000Mbytes を利用することができます。



3. Windows と Linux のファイルの保存場所

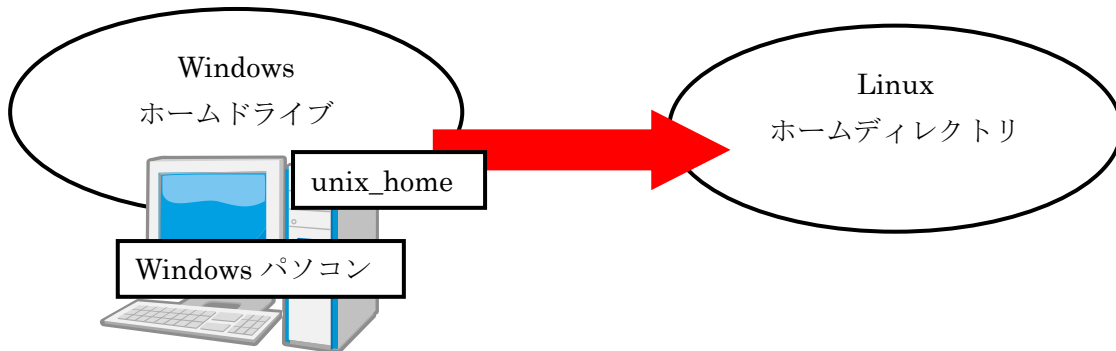
学内の情報処理設備は Windows と Linux の 2 種類の OS があり、各ユーザに割り当てられたファイルの保存場所はそれぞれ別々に存在します。

- Windows 「ホームドライブ」
 ホームドライブは Windows 環境の「U:」ドライブや「マイドキュメント」、「デスクトップ」という形で存在しています。「エクスプローラ」でアクセスすることで保存しているファイルを確認できます。
- Linux 「ホームディレクトリ」
 情報処理設備の Linux や遠隔端末接続 (SSH) サービスにログインしたときに表示されるディレクトリです。情報処理設備の Linux では「ファイル・ブラウザ」でアクセスすることで保存しているファイルを確認でき、SSH では「ターミナルソフト」で「ls」コマンドを実行することで保存されているファイルを確認できます。



4. Windows と Linux の関係

Windows から Linux のホームディレクトリにアクセスできるようにするため、U ドライブに「unix_home」というショートカットがあります。このフォルダを開くことで Linux のファイルが確認できます。



Linux から Windows のホームドライブにはアクセスすることができません。Linux から Windows へデータの移動をする場合は USB メモリ等を利用してデータを移動してください。

